

ぎのわんの 歴史・文化遺産を 歩く 其の19

はじめに

今月は、宜野湾市内の各地域が大事にしている指定・登録文化財について紹介します。最初は、平成26年8月15日に登録文化財となった「字宜野湾の年中祭祀」です。集落が基地となっても

「字宜野湾の年中祭祀」は、戦前から字宜野湾の方々が行っていた祭祀の一部で、土帝君（トウディーケー）の例祭、カーサレー拝み、シマクサラシがあります。元の集落が普天間飛行場に接収されてからも、現在の宜野湾区を中心に行っている祭祀です。

土帝君例祭

旧暦2月2日に、宜野湾公民館近くの土帝君祠で行われる祭祀です。字宜野湾



土帝君例祭



カーサレー拝み



シマクサラシ

問合せ：文化課 ☎89314430

「各地域の文化財①」

の土帝君は、中国から勧請したとされ琉球の歴史書「球陽」にもその記述がみられます。字宜野湾では、土帝君はチュクイ・ムジユクイ（農作物）の神、ムラの守り神として篤く信仰されています。

カーサレー拝み

旧暦6月25日に行われる行事です。現在は、旧暦以降の日曜日にウブガーなどを清掃した後に、ウブガーやメーヌウタキ、クシヌウタキなどで祈願を行っています。

シマクサラシ

旧暦8月10日に区内に悪疫が侵入するのを防ぐためシマクサラシと呼ばれる祈願があります。字宜野湾は、集落が接収された現在は、宜野湾区の所定の場所（ピンシー）（洗い米・酒・塩等）と重箱（牛肉等）を供え、招福除災を祈願しています。

茶ぐわーゆんたく

133

身近な自然に目を向けてみよう！

メーテルリンクの『青い鳥』のお話をご存知ですか。二人の幼い兄弟が青い鳥（幸せの象徴）を探して旅に出ますが、実は青い鳥は自分たちの家にいた、というお話で、足元を見つめる事の大切さを気づかせてくれます。

さて、私たちの身近なところに目を向けてみると、宜野湾市にも青い色の鳥がいます。「イソヒヨドリ」（方言名イシズーサー）のオスで、ハトより小さく、スズメより大きい、全長約25センチです。頭から胸、背、腰が青藍色（コバルトブルー）、腹は暗赤色です。青い色は光の当たり具合でさらに鮮やかに見えます。

「ヒヨドリ」と名前についていますが、実はツグミ科の鳥で、メスは上面が灰黒褐色、下面が暗黄褐色で、オスに比べて



イソヒヨドリのオス

市水道局前 2015（平成27）年3月

かなり地味です。

元々の習性は、海岸線の岩場を生息地としていたようですが、宜野湾市では内陸部も含め市内全域で見られる留鳥（渡りをせず、一年中住み着いている鳥）です。主に昆虫類を捕食し、高い澄んだ声でさえずります。

1995（平成7）年の調査により市内で確認された鳥類は、35科118種でした。そのなかで、留鳥は26種で全体の約22%に留まり、約78%は季節の移動中に立ち寄る、夏鳥・冬鳥・旅鳥でした。これは市内の緑地や河川、水田などを頼りに渡り鳥がやってきていることを意味しています。現在は、宇地泊干潟が埋め立てられ、また、都市化などの大きな環境変化が野鳥たちの数を減少させています。

緑地は私たちに潤いをもたらしてくれと同時に、野鳥にとつては採餌、休息、繁殖などの重要な場所となっています。野鳥の生態を知り、その環境を保全することは、人間にとつても住みよい暮らしを築くことになります。

豊かな未来のためにも、一人一人が自分のまわり（足元）の自然に目を向け、今ある自然環境を守ることが大切ではないでしょうか。

『宜野湾市史』への問合せ
市立博物館 ☎870-9317